



題字 井口 文章
再刊 第507号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2026

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面…秋大会 結果を残した3部活を紹介
着々と修学旅行準備が進んでいます！
二面…再版500号アンケートを振り返る
60回卒業記念品の桜が植樹

10作品が展示 写真部
令和7年11月19日(水)から11月24日(月)にかけて行われた第53回東京都私立中学高等学校生徒写真美術展で佐藤さよさん(2J)の「満ちるとき」が特選に、菅沼碧さん(2G)の「夜空に咲く思い」が入選に選ばれ、これらを含む10作品が東京都美術館に展示された。

思いを胸に さらなる高みへ 秋大会で結果を残す



笑顔で賞状と写真を撮る硬式テニス部
部長「次は決勝に行けるように頑張ります」

今回は秋に行われた大会などで賞を獲得した部活のうち、3つの部活の様子をお伝えする。
(編集部共同取材)

総合5位 硬式テニス部

11月に行われた第50回東京都私立中学高等学校テニス選手権大会男子の部で、硬式テニス部錦城Aチームが、全272団体中、総合5位に輝いた。活躍した6人のうち、部長の松井翔さん(2D)と副部長の佐藤誠一郎さん(2H)、橋本憲さん(1A)に大会を振り返ってもらった。

印象に残った試合として、松井さんは5回戦目に戦った強豪の明星高校を挙げた。「予想していた相手の出方が外れ、タイブレーク(延長戦)に

4つの賞を受賞 文藝部

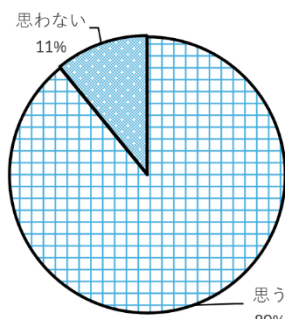
11月23日(日)にハリウッド美容専門学校で開催された、第48回東京都高等学校文化祭文芸部門中央大会で文藝部の市川乃愛さん(1J)が小説部門で生徒賞、松井幸さん(2A)が俳句部門で分科会賞、小説部門で生徒賞と佳作を、それぞれ受賞した。



特選に選ばれた佐藤さよさん(2J)の作品「満ちるとき」

もつれ込みましたが、勝てました」と話してくれた。鶴ヶ丘高校に負けると試合を振り返る佐藤さんは「でもいい経験になりました。悔しかったです」と語り、佐藤さんのペアとして戦った橋本さんも「結構いいところまで行けたのでマジで悔しいです」と話す。松井さんは「次は決勝まで行けるように頑張ります」と意気込みをみせた。

あなたはイヤホン使用に賛成？反対？アンケート実施



校内でイヤホンを使いたいと思いますか？
思う：89.1% 思わない：10.9% (回答者 421名)

505名の生徒会座談会で話題に上がったイヤホンの問題について生徒から反響があったため、新聞委員会では12月頭にアンケートを実施。1～3年生で、421名の回答が集まった。

アンケートより、イヤホンを使いたいという生徒の割合は89.1%だった(グラフ)。イヤホンを使用したいという人からは「英語のリスニングの学習に使いたい」といった意見や「なぜ禁止されているのかわからない」、「なぜイヤホンは学習に必要なと判断されてしまうのか」といった意見が挙がっていた。一方で「前にイヤホンを使っている生徒の音漏れが迷惑だった」という声や事故や落し物が増えることへの懸念の声も寄せられた。

アンケートの結果を踏まえ、生徒会長の神田陸翔さん(2G)に話を聞いてみた。神田さんによると、イヤホンが禁止とされている理由として、緊急時の放送や呼びかけが聞こえない可能性があるためと、イヤホンを使ってパソコンでゲームをする人がいないようにするためだそう。生徒部主任の石塚先生はイヤホンの導入について、「個人的には使えるようにしたいが、生徒が都合の良ように拡大解釈をして収集のつかない事態になるのを懸念している」と不安を語った。

また、神田さんは「2年ほど前に代議員がイヤホンの導入を進めていましたが、惜しいところであってしまいました」と説明。過去にそのような動きがあったことも踏まえ、神田さんは「今年度中にイヤホンを使えるようにしたいです。見込みもあります」と話した。ただ、これには教員からの信頼が不可欠だと強調し、ルールを守るよう生徒に呼びかけた。

手話を覚えよう！⑮



補聴器はイヤホンと間違えられることがあるから補聴器の形などを知ることが大事だと思います。(西塚先生)

今回の手話を実演して下さったのは、国語科の西塚友紀子先生。第15弾で紹介するのは、「かわいい」だ。左手の小指を上に向けて、右手で撫でるように上で回す、というものだ。左手の小指を親指や握った手の甲にしても使える。日常生活でも使おう！

62回生 修学旅行に向けて準備進む

山中先生「めいっばい楽しんで」
生徒が準備を進めている。

1月26日(月)～30日(金)の62回生修学旅行に向け、係りやレク企画など、各々が担当



修学旅行のしおりの表紙

当のページをまとめる活動をしている。チーフの永谷恋さん(2B)は、「小中学校でも修学旅行係をした経験があったので、今回もやってみよう」と思い、「13人の各々が一生懸命作ったので、ぜひ楽しんでください」と笑顔で話してくれ



修学旅行を盛り上げるために、PRの計画を練る

む。小学校では修学旅行が中止になったため、修学旅行への憧れがあったそうで、「みんなに楽しんでもらえるような修学旅行を作ります！」と熱く語った。62回生に向けて、「LOVE TEAM!」と力強いメッセージを送った。

修学旅行チーフの山中崇靖先生にもお話を伺った。山中先生によると、昨年、初日の内容だった容震震学習が今年も観光に変わり、最終日の体験学習も選択できる体験の種類が増えたそう。ただ、観光で町

もしもに備えて 避難訓練行われました

12月3日(水)6時間目、グラウンドにて全学年が参加する避難訓練が行われた。小平消防署花小金井出張所の消防士の方々も来校し、通報訓練や消火訓練を行った。



消防車とパシャリ

分には危険がないと判断した場合は、けが人や逃げ遅れの状況も伝えるとよりよいとのこと。実際に通報体験をした飯田夏乃香さん(1K)は、「緊張したけれど、消防士さんが冷静だったので落ち着けました。貴重な体験ができてよかったです」と感想を話した。

むらさき草

早口言葉、それは、優れた口の持ち主だけが行うことができる競技。例えば「隣の客はよく柿食う客だ。良い響きである」早口言葉は、滑舌トレーニングとして取り上げられることがある。東北大学教授の川島隆太先生によると、早口言葉には、記憶容量の増加、頭の回転速度向上という2つの効果がある(川島隆太「とっさに言葉が出てこない人のための脳に効く早口言葉」2024)。遊びながら自分を鍛えることのできる「早口言葉」競技だ。クラスの早口言葉大会で、最下位というふがいない結果を取り、そこから早口言葉の研究を始めた。研究結果を語らせてもらうと、早口言葉には法則性がある▼鬼○の刃風に言うときまず、言の呼吸の一型「連続文字配列」。初心者向けに例えば「生麦生米生卵」(庭には二羽鶏がいる)と、同じ部分を持つ単語を並べたタイプ。これは、ゆっくり読むことから練習しよう▼二の型は「同母音羅列」。例としては「炙りカルビ」「なかなかカタカナ書けなかったな。中々厄介だが、単語の区切りを意識しながら読み、対策してほしい▼そして三の型最終奥義は「拗音陳列の儀」。「や」「ゆ」「よ」とその前の母音と被らないものを並べるやり方。これには「東京特許許可局」(派出所で手術中)などが君臨している▼早口言葉の創作は、新たな語彙に触れるため、単語力を鍛えることができる。先の三つの型を組み合わせると、難解なオリジナル早口言葉を生み出すことができる。地方の方言は拗音が含まれていることが多いので、おすすめだ▼私のオリジナルは「救急車、砂丘で急遽緊急休憩」。早口言葉は遊びに遊ぶにあらず。皆さんも、早口言葉という究極の言語遊戯を追求し、新聞委員会編集部で待つ私と共に高め合おう。

